

冬期における富山市野積川の鳥類相

高橋輝男

富山市ファミリーパーク

〒930-0151 富山県富山市古沢254

Bird Survey at Nozumi River in Winter, Toyama City, Toyama Prefecture, Japan

Teruo Takahashi

Toyama Municipal Family Park Zoo, 254 Furusawa, Toyama-shi, Toyama -930-0151, Japan

要約：無雪期における富山市野積川の鳥類相（高橋，2019）を補完することを目的に、2018年12月から2019年3月までの間、富山県富山市八尾町の野積川において鳥類の生息調査を行った。西松瀬～猟師ヶ原間の月3回ずつのラインセンサスと、流域4カ所での月2回のスポットセンサス、および目撃情報の収集を実施した。ラインセンサスでは35種の鳥類を記録し、無雪期には見られなかったミヤマホオジロ、アトリ、マヒワの3種の鳥類を新たに確認した。当調査地の冬期の鳥類相の特徴として、冬期を通してミソサザイやカワガラスなど溪流性の鳥類種が観察されること、積雪量が多い時期にもルリビタキやオシドリなどが生息していることが挙げられた。

はじめに

著者は富山県生物学会の野積川流域総合調査の一環として、2018年4月から11月の間、鳥類の生息調査を行った（高橋，2019）。今回、未調査であった冬期の調査を2018年12月から2019年3月の間に実施したのでその結果を報告する。

調査地と調査方法

調査は2018年12月から2019年3月までの間、富山県富山市の野積川にてラインセンサス調査とスポットセンサス調査、目撃鳥類の記録を行った。ラインセンサス調査では松瀬橋を起点に西松瀬を通り猟師ヶ原発電所上流の分岐点までの標高280～440m、1.852kmのコースを時速約2kmで歩行しながら観察半径50mの範囲に出現した鳥類種と個体数を記録した。調査は午前中に終了することを目的に、各月に3回ずつ、計12回実施した。（図1）



図1 ラインセンサスルート

（国土地理院地図の地理院地図（電子国土web）より作図）

ラインセンサスルート観察半径の環境要素を現地で目視確認し、地図を方眼紙に複写して面積比を算出したところ、樹林74%、耕地3%、草地・荒地（休耕地・耕作放棄地を含む）15%、水域7%、その他1%であった。

スポットセンサスは高熊橋、八十島橋、布谷橋、松瀬橋の4カ所で午前中に各20分の定点観測を各月に2回ずつ実施し、範囲を定めずに目撃できた全ての鳥類の種と個体数を記録した(図2)。

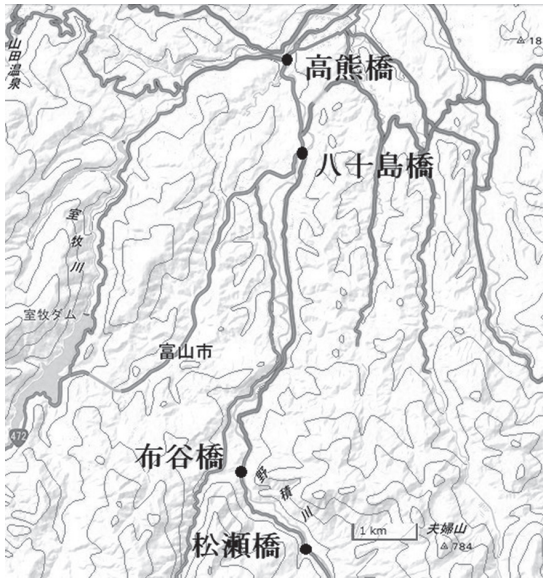


図2 スポットセンサス地点
(国土地理院地図の地理院地図(電子国土web)より作図)

結果及び考察

1) 出現種および出現個体数

ラインセンサスにおける月ごとの出現種および出現個体数を、表1に示した。2018年12月~2019年3月の4か月間で35種の鳥類を確認した。その中で本調査で新たに確認できた種はミヤマホオジロ、アトリ、マヒワの3種だった。

2) 月ごとの種数と出現個体数

無雪期の記録(高橋, 2019)と合わせたセンサスルートの月ごとの出現種数を図3に、1km(10ha)あたりの平均出現個体数を図4に示した。

種数は12月に20種、1月に22種、2月に23種、3月に22種と、積雪のある時期でも秋に比べて大きく低下することなく推移した。

個体数は12月平均が18.36羽/10ha、1月平均が22.68羽/10ha、2月平均が17.10羽/10ha、3月平均が24.66羽/10haと他の季節に比べて低水準で推移した。

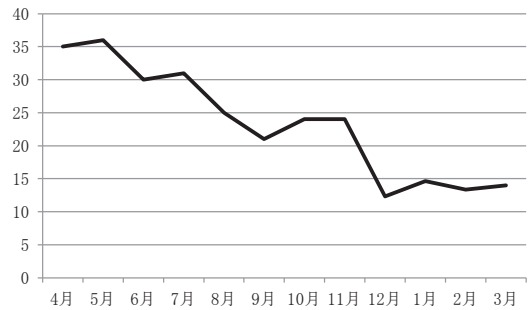


図3 月ごとの出現種数

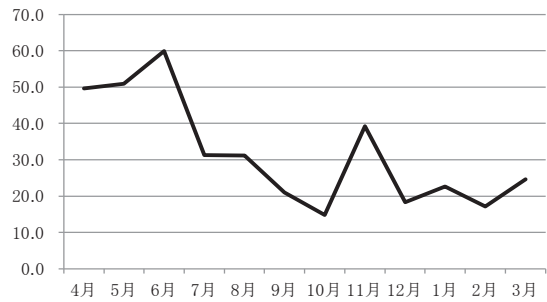


図4 月ごとの出現個体数(羽/10ha)

3) 主要種および優占度

ラインセンサスで記録された各月の確認種のうち、カモ科・ウ科・カイツブリ科を除いて個体数の多かった上位十種と個体数の割合を表2に示した。

カワガラス・ミソサザイ・ウグイス・シジュウカラの4種が毎回確認され、ヒヨドリ・ヤマガラ・ヒガラ・ホオジロ・カケスも高い確率で観察された。

冬期の鳥類相は、由井(1977)による冬期鳥類群集の類型ではヒヨドリ-シジュウカラ-エナガ群集(暖帯内陸常緑樹林型)に近似した。

表1 ラインセンサスにおける月ごとの出現種および出現個体数（積雪は西松瀬バス停にて計測）

調査日	2018/12/4	2018/12/11	2018/12/21	2019/1/4	2019/1/10	2019/1/28	2019/2/15	2019/2/21	2019/2/26	2019/3/5	2019/3/18	2019/3/22
西松瀬集落の積雪	0cm	0cm	2cm	50cm	45cm	80cm	120cm	90cm	40cm	20cm	0cm	0cm
1 オシドリ				2		24	8					
2 トビ									3			1
3 ヤマドリ									1			
4 キジバト		1										
5 ヤマセミ				1	2	1	1					1
6 アカゲラ				1	1	1	1				1	
7 コゲラ				2		1		1			1	
8 キセキレイ	1					1		2	1		1	3
9 セグロセキレイ	2	2										
10 ヒヨドリ	3					3	1	1				2
11 カワガラス	3	4	2	5	5	4	2	4	3	3	2	4
12 ミソサザイ	1	3	1	2	1	4	2	5	2	2	3	3
13 ルリビタキ						1	2	1				
14 ジョウビタキ						1						
15 シロハラ					1							
16 ウグイス	4	2	3	2	2	1	1	2	4	2	2	5
17 エナガ		6				4				1	4	2
18 コガラ	3			2	2			3	1			
19 ヒガラ	2	1		4	5	3		1			2	
20 ヤマガラ	2	2			1	1	2	2			1	2
21 シジュウカラ	9	4	2	3	2	7	3	3	3	3	11	5
22 ゴジュウカラ		1										
23 メジロ												1
24 ホオジロ	12	6	2			1		4	3	5	16	8
25 カシラダカ			3						4		15	8
26 ミヤマホオジロ											1	
27 アオジ	2							2				
28 アトリ									4			
29 カワラヒワ												1
30 マヒワ				2								
31 ベニマシコ	2		2									
32 イカル										1		
33 カケス	1	1		2	7	6	4	1	4	6	1	2
34 ハシボソガラス					1				1	1		
35 ハシブトガラス	2	1		1	2			1	1	1	1	1
合計個体数	50	34	18	30	32	64	27	33	35	25	63	49
出現種数	16	13	8	14	13	17	11	15	14	10	16	16
個体数(n/10ha)	27.00	18.36	9.72	16.20	17.28	34.56	14.58	17.82	18.90	13.50	34.02	26.46

表2 月ごとの優占種と優占度

12月	%	1月	%
ホオジロ	19.61	カケス	11.90
シジュウカラ	14.71	カワガラス	11.11
カワガラス	8.82	シジュウカラ	9.52
ウグイス	8.82	ヒガラ	9.52
ヒヨドリ	5.88	ミソサザイ	5.56
エナガ	5.88	ウグイス	3.97
ミソサザイ	4.90	ヒヨドリ	3.17
セグロセキレイ	3.92	エナガ	3.17
ヤマガラ	3.92	コガラ	3.17
ベニマシコ	3.92	ヤマセミ	3.17

2月	%	3月	%
カケス	9.47	ホオジロ	21.17
カワガラス	9.47	カシラダカ	16.79
シジュウカラ	9.47	シジュウカラ	13.87
ミソサザイ	9.47	カケス	6.57
オシドリ	8.42	カワガラス	6.57
ウグイス	7.37	ウグイス	6.57
ホオジロ	7.37	ミソサザイ	5.84
コガラ	4.21	エナガ	5.11
ヤマガラ	4.21	キセキレイ	2.92
カシラダカ	4.21	ヤマガラ	2.19
アトリ	4.21	ヒヨドリ	2.19
		ハシブトガラス	2.19

4) 特記すべき種

オシドリ (図5)

同所における無雪期の調査（高橋，2019）ではラインセンサス中には記録されなかったが、本調査では2019年1月28日に24羽、2月15日に8羽とまとまった数の群れが確認された。いずれも積雪が多い調査日であったことから、オシドリが積雪量により生息場所と群れサイズを変化させながら暮らしていることが示唆された。

カワガラス (図6)

カワガラスは本冬期調査のすべての観察日で行インセンサス中に複数個体が確認された。積雪期においても個体数の変動が少ないことについては、本種の主な採食場所が流水中の河床で暮らす昆虫の幼虫類であり、積雪や水温の影響を受けにくいことや、1月～2月に繁殖を行う習性とよく合致していた（日高，1997）。



図5 オシドリ (2019/1/28 ランセンサスルート)



図6 カワガラス (2019/1/10 ランセンサスルート)



図7 ルリビタキ (2019/2/15 ランセンサスルート)

ルリビタキ (図7)

本調査地では1月28日、2月15日、2月21日積雪が多い日にのみ特異的に観察された。小川や土の露出し急崖地で餌をさがす本種やミソサザイは積雪時でも山間部に留まる傾向が強いとされ(金子, 2012)、当調査地近辺の溪流沿いはルリビタキにとって多雪地帯低山帯の生息下縁としての機能を持つことが示唆された。

引用文献

- 金子与止男. 2012. 多雪地帯低山帯の越冬鳥類群集. 森林野生動物研究会誌. 37: 7-15
- 日本鳥学会(編). 2012. 日本鳥類目録改訂第7版. 438pp. 日本鳥学会, 東京.
- 高橋輝男. 2019. 無雪期における富山市野積川の鳥類相. 富山の生物. 58: 36-42.
- 富山県. 2012. 富山県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックとやま2012. 31-75. 富山県.
- 日高敏隆(監修). 1997. 日本動物大百科第4巻 鳥類Ⅱ. 91-92. 平凡社, 東京.
- 由井正敏. 1976. 森林性鳥類の群集構造解析Ⅰ. 山階鳥研報. 47: 223-248.
- 由井正敏. 1977. 森林性鳥類の群種構造解析Ⅱ. 山階鳥研報. 49: 29-45.

富山市野積川の鳥類目録

無雪期における野積川の鳥類相(高橋, 2019)および本調査で確認した鳥類77種を、分類群別に学名、和名の順に記載し、指定等を付記した。本調査で初認された3種については和名に○印を付した。また、ラインセンサス以外で記録された種および特記事項のある種については、主な記録について観察年月日と個体数、観察場所、観察者名を付記した。

なお、学名は日本鳥類目録第7版(日本鳥学会, 2012)に、環境省のカテゴリーは環境省レッドリスト2019に、富山県のカテゴリーはレッドデータブックとやま2012に拠った。

PHASIANIDAE キジ科

1. *Syrnaticus soemmerringii* ヤマドリ
2. *Phasianus colchicus* キジ

ANATIDAE カモ科

3. *Aix galericulata* オシドリ
4. *Anas zonorhyncha* カルガモ
5. *Mergus merganser* カワアイサ

COLUMBIDAE ハト科

6. *Streptopelia orientalis* キジバト
7. *Treron sieboldii* アオバト

ARDEIDAE サギ科

8. *Ardea cinerea* アオサギ
9. *Ardea alba* ダイサギ

CUCULIDAE カッコウ科

10. *Cuculus poliocephalus* ホトトギス
11. *Cuculus optatus* ツツドリ
12. *Cuculus canorus* カッコウ

CHARADRIIDAE チドリ科

13. *Charadrius placidus* イカルチドリ
富山県：準絶滅危惧
14. *Charadrius dubius* コチドリ
富山県：準絶滅危惧

SCOLOPACIDAE シギ科

15. *Tringa ochropus* クサシギ
16. *Actitis hypoleucos* イソシギ

ACCIPITRIDAE タカ科

17. *Milvus migrans* トビ
18. *Accipiter gentilis* オオタカ
環境省：準絶滅危惧 (NT)
富山県：絶滅危惧Ⅱ類
19. *Butastur indicus* サシバ
環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
富山県：絶滅危惧Ⅰ類
20. *Nisaetus nipalensis* クマタカ
環境省：絶滅危惧ⅠB類 (EN)
富山県：絶滅危惧Ⅰ類

ALCEDINIDAE カワセミ科

21. *Halcyon coromanda* アカシヨウビン
富山県：準絶滅危惧
22. *Alcedo atthis* カワセミ
富山県：準絶滅危惧

23. *Megaceryle lugubris* ヤマセミ
富山県：絶滅危惧Ⅱ類

PICIDAE キツツキ科

24. *Dendrocopos kizuki* コゲラ
25. *Dendrocopos leucotos* オオアカゲラ
26. *Dendrocopos major* アカゲラ
27. *Picus awokera* アオゲラ

CAMPEPHAGIDAE サンショウクイ科

28. *Pericrocotus divaricatus* サンショウクイ
環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
富山県：準絶滅危惧

MONARCHIDAE カササギヒタキ科

29. *Terpsiphone atrocaudata* サンコウチョウ
富山県：準絶滅危惧

LANIIDAE モズ科

30. *Lanius bucephalus* モズ

CORVIDAE カラス科

31. *Garrulus glandarius* カケス
32. *Corvus corone* ハシボソガラス
33. *Corvus macrorhynchos* ハシブトガラス

PARIDAE シジュウカラ科

34. *Poecile montanus* コガラ
35. *Poecile varius* ヤマガラ
36. *Periparus ater* ヒガラ
37. *Parus minor* シジュウカラ

HIRUNDINIDAE ツバメ科

38. *Hirundo rustica* ツバメ
39. *Hirundo daurica* コシアカツバメ
40. *Delichon dasypus* イワツバメ

PYCNONOTIDAE ヒヨドリ科

41. *Hypsipetes amaurotis* ヒヨドリ

CETTIIDAE ウグイス科

42. *Cettia diphone* ウグイス
43. *Urosphena squameiceps* ヤブサメ

AEGITHALIDAE エナガ科

44. *Aegithalos caudatus* エナガ

PHYLLOSCOPIDAE ムシクイ科

45. *Phylloscopus borealoides* エゾムシクイ
46. *Phylloscopus coronatus* センダイムシクイ

ZOSTEROPIDAE メジロ科

47. *Zosterops japonicus* メジロ

SITTIDAE ゴジュウカラ科

48. *Sitta europaea* ゴジュウカラ

TROGLODYTIDAE ミソサザイ科

49. *Troglodytes troglodytes* ミソサザイ

CINCLIDAE カワガラス科

50. *Cinclus pallasii* カワガラス

MUSCICAPIDAE ヒタキ科

51. *Turdus cardis* クロツグミ
52. *Turdus pallidus* シロハラ
53. *Turdus chrysolaus* アカハラ
54. *Turdus naumanni* ツグミ
55. *Luscinia akahige* コマドリ
56. *Luscinia cyane* コルリ
57. *Tarsiger cyanurus* ルリビタキ
58. *Phoenicurus aureus* ジョウビタキ

59. *Saxicola torquatus* ノビタキ
60. *Muscicapa dauurica* コサメビタキ
富山県：準絶滅危惧
61. *Ficedula narcissina* キビタキ
62. *Cyanoptila cyanomelana* オオルリ

PASSERIDAE スズメ科

63. *Passer montanus* スズメ

MOTACILLIDAE セキレイ科

64. *Motacilla cinerea* キセキレイ
65. *Motacilla alba* ハクセキレイ
66. *Motacilla grandis* セグロセキレイ

FRINGILLIDAE アトリ科

67. *Fringilla montifringilla* アトリ ○
68. *Chloris sinica* カワラヒワ
69. *Carduelis spinus* マヒワ ○
70. *Uragus sibiricus* ベニマシコ
71. *Pyrrhula pyrrhula* ウソ
72. *Eophona personata* イカル

EMBERIZIDAE ホオジロ科

73. *Emberiza cioides* ホオジロ
74. *Emberiza rustica* カシラダカ
75. *Emberiza elegans* ミヤマホオジロ ○
76. *Emberiza spodocephala* アオジ

他に外来種として

COLUMBIDAE ハト科

77. *Columba livia* カワラバト (ドバト)